

花の小さな蕾に春の訪れを感じるこの頃です。皆様におかれましてはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

お忙しい中、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることをめざしています。

☆平成29年度前期学校評価アンケートとの比較を通した分析

1. 学力面について

① 学力について

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)



1. (児童) 授業はよくわかる

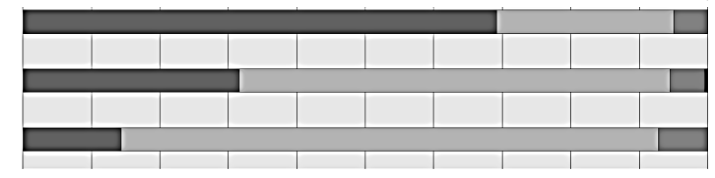
1. (保護者) 子どもは確かな学力を身につけている

1. (教職員) 子どもたちに確かな学力が身につくように指導している



② 授業について

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)



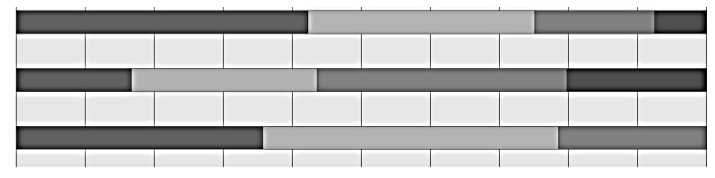
3. (児童) 先生はていねいに教えてくれる

3. (保護者) 授業は楽しくわかりやすく工夫されている

3. (教職員) 教材研究に努め、わかりやすい授業を工夫している

③ 読書について

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)



6. (児童) 自分から進んで本を読んでいる

6. (保護者) 子どもは家で進んで本を読んでいる

6. (教職員) 子どもたちが進んで本を読むように取組を進めている



④ 家庭学習について

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)



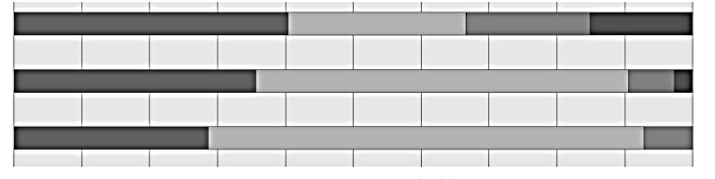
7. (児童) 家で宿題など進んで学習している

7. (保護者) 子どもが家庭で学習に取り組めるように働きかけている

7. (教職員) 子どもたちにあった課題を与え、家庭学習の定着を図る取組を進めている

⑤ 生活リズムについて

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 (%)



10. (児童) 学習時間やテレビ・ゲームの時間など、一日の中で時間を決め生活している

10. (保護者) 「早寝・早起き・朝ごはん」など、規則正しい生活ができるよう心がけている

10. (教職員) 子どもたちに規則正しい生活習慣が身につくように取組を進めている

① 学力②授業について

前期と比べて大きく変化したところはありませんでした。学力に関しては「そう思う」の数値が児童で3ポイント増加しました。授業に関する項目では、保護者の「そう思う」の数値が4%増加し、児童・保護者共に学力向上に対する意識は向上しています。学年別に見ると、中学年・高学年の

保護者で「授業は楽しく分かりやすく工夫されている」の「そう思う」が8%増加し、保護者の方々に学校の取組を評価していただいていることが分かりました。「先生の丁寧な指導」により「分かる喜び」を感じる児童が一人でも増えるよう、学力向上の取組を今後も継続して進めます。

③ 読書活動について

児童の「家で進んで本を読んでいる」の肯定的意見が減少しました。同様に保護者・教職員の数値も肯定的意見が減少しました。学年別に詳しく見ると、低学年児童の肯定的意見の数値が減少しているのに対して、中学年や高学年では否定的意見が減少しました。これは、よく本を読んでいた低学年児童が減り、中学年以上では、全く読まなかった児童が減ったことが伺えます。また、保護者アンケートを詳しく見ると低学年・中学年の数値には大きな変化は見られませんが、高学年の数値で「家で進んで本を読まない子」の数値が大きく増加していました。家に帰っても続けて本が読めるような図書館活用を進めていきます。

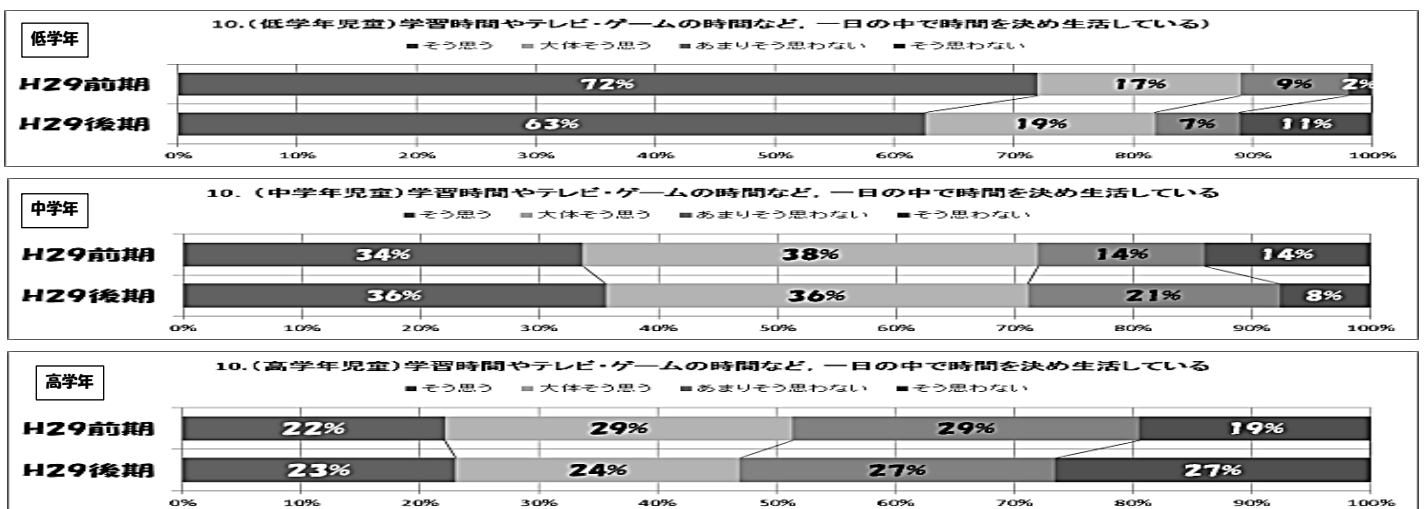
④ 家庭学習について

児童アンケートを見ると、低学年の数値で否定的意見が減少したのに対して中学年・高学年の肯定的意見が上昇しました。保護者アンケートの結果にも同様の傾向が見られました。学年が上がるにつれて家庭学習のリズムや習慣が確立してきていることが伺えます。今後も「授業と連動した家庭学習の確立」を目指して取組を進めていきます。ご協力をお願いいたします。

⑤ 生活リズムについて

児童・保護者共に、全体的に肯定的意見が僅かに減りました。学年ごとに見ると、下のグラフのように、低学年から高学年に上がるにつれて肯定的意見の数値は減少しています。中学年児童では肯定的意見が僅かに増加しましたが、低学年・高学年児童では反対に否定的意見が増加していました。学習時間やテレビ・ゲームなどに関して一日の中で時間を決めて生活をするリズムがやや崩れてきていることが伺えます。生活点検週間でも高学年児童の就寝時刻が遅くなっていました。保護者アンケートでも同様の傾向が伺えます。生活リズムの確立に向けて、家庭でのルールを今一度話し合っていていただい、規則正しいリズムが身につくよう保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

児童アンケート「一日の中で時間を決めて生活していますか」



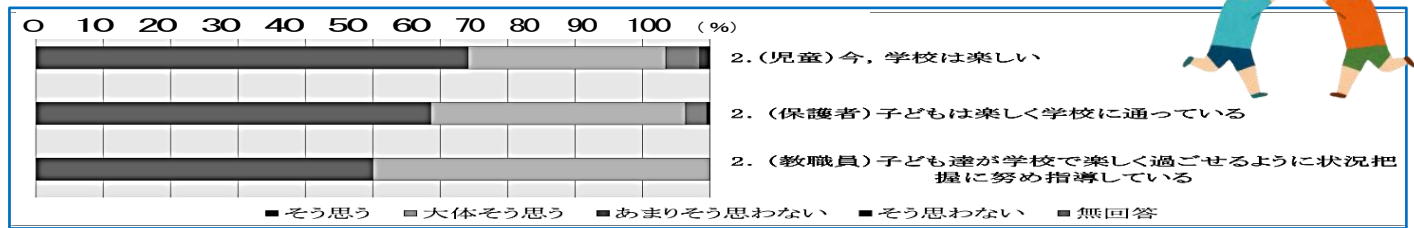
【家庭からのご意見】

- 苦手な事にも取り組む姿を見ることが増えました。学校での様子は自宅とは違いしっかりと動いており先生方の指導のおかげだと思ふ。
- 全学年の先生と生徒の関わりがとてもいいのだろうと思う素晴らしい音楽会でした。
- 家でしっかりと見守りがんばろうとしています、なかなかできていない現状です。上手にトラブルを避ける方法をアドバイスしていただけるとありがたいです。
- 学校での事は友達関係や様子など不透明な感じと。もっと知りたいというのが本音ですが、成長につれてわからない事が増えてくると思っています。
- 音楽会の時、演奏中にも関わらず保護者のおしゃべりがうるさくて困りました。
- ゲームやタブレットで動画やアニメを見ていて、注意しても宿題をなかなかせずいます。寝る時間が遅くなり寝不足になっていて休日は昼まで寝ています。

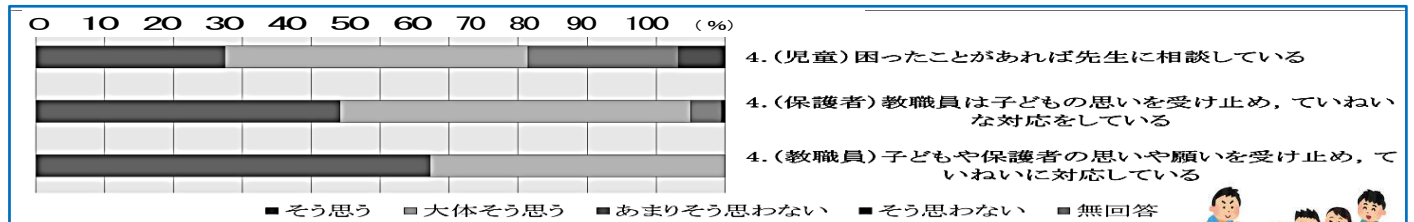
内容を踏まえ今後の学校運営に生かしていきたいと思ふ。今後ともご理解・ご支援いただきますよう、お願いいたします。

2. 生活面について

① 学校の楽しさについて



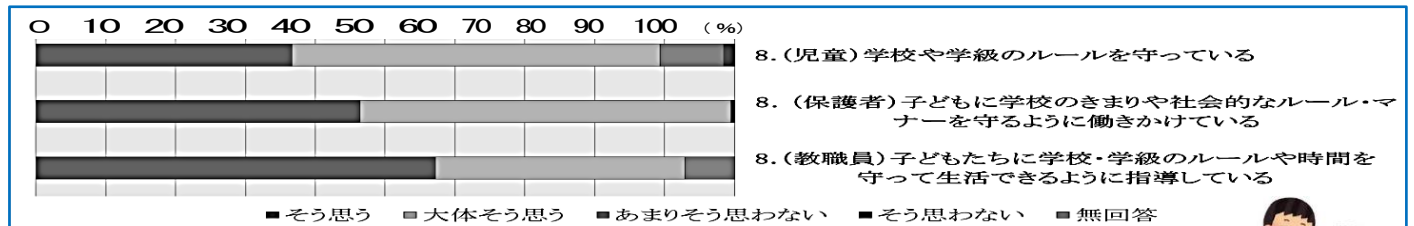
② 思いや願いの受け止めについて



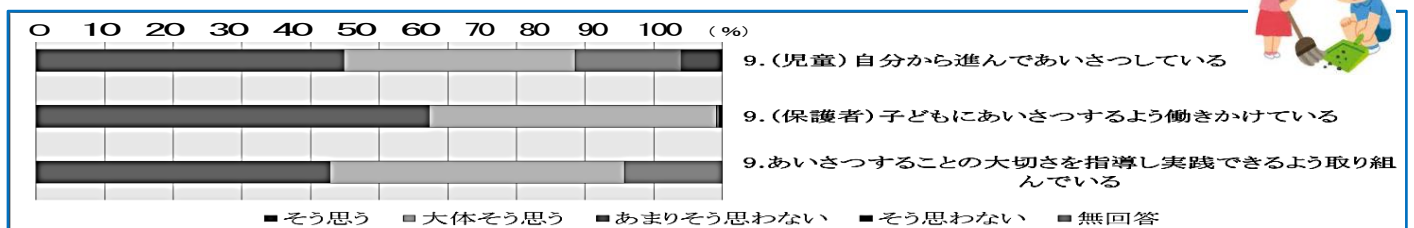
③ 人権(思いやり)について



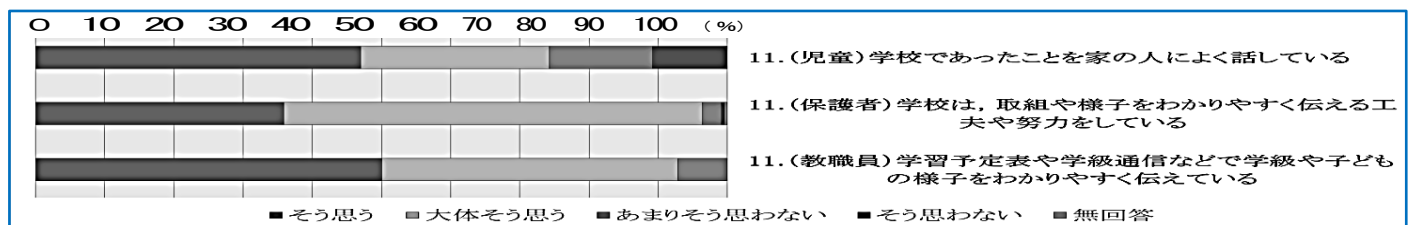
④ きまりについて



⑤ あいさつについて

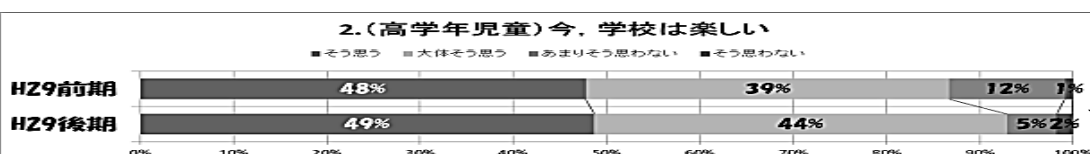


⑥ 学校・家庭との連携について



① 楽しさについて

学校を楽しんでいる児童が90%以上をしめています。また、児童・保護者共に肯定的意見が増えました。学校を楽しんでいる子が増えています。しかし、否定的な回答児童がいる事を真摯に受け止め、今後も一人ひとりが楽しいと思える学校づくりを進めます。



高学年の児童学校生活充実度の向上は、学校全体の活力と学力向上につながりました。

② 子どものおもいや願いの受け止めについて

児童アンケートでも保護者アンケートでも肯定的意見の合計が増加しました。低学年児童は学校に慣れ、自己解決力が向上したことにより困りごとを先生に伝えずとも解決する事ができるようになりました。また、中学年以上では、担任との信頼関係が深まり、困りごとの解決に向けて相談しようとする意識が向上したことが伺えます。保護者のコメントに「親の目の届かないところまで一緒に考えご指導していただいている。感謝しています。」「細かい所まで見ていただいている。」のご意見にもあるように学校の取組を評価していただいています。

③ 思いやり④規範意識について

児童・保護者共に肯定的意見の数値が上昇し、否定的意見の数値は減少しています。これは、道徳教育を柱とする取組の成果として受け止め、これからも道徳教育を推進していきます。

④ あいさつについて

低学年児童の肯定的意見の合計が僅かに減少しましたが、中学年や高学年児童と保護者の肯定的意見は増加しました。保護者の結果に否定的な意見がほぼ0%に近い数値になりました。あいさつに対する意識は向上しています。地域・保護者・小中学校で連携して推進して、互いに気持ちの良いあいさつができるよう、教職員も子どもたちへの積極的働きかけを行い、あいさつの輪を広げようとする意識の向上を図ります。



⑤ 学校・家庭との連携について

保護者アンケートの「学校は取組の様子を分かり易く伝える努力をしている」の項目では肯定的数値が増加しました。日頃から、「子どもたちの様子を丁寧にお伝えする」と努力する学校の取組を評価していただいています。一方で、「学校であったことを家の人に話していますか」の児童の項目で、肯定的意見の合計がどの学年も減少していました。学校行事や体験学習などを通して、子どもたちの話題に耳を傾けながら、ご家庭での一家団欒のひとときを大切にいただきますようお願いします。

3. 「学校運営協議会」による学校関係者評価（外部評価）

学習指導要領改訂に向けての取組について

- 学習指導要領の改訂に向けて学校が時間割や教育課程を改訂していることが分かった。学校教育目標に向かう様々な取組が子どもたちの行動に生きていると感じている。中学校とも連携して、学び続ける子どもの育成を目指す。自分のまちを誇りに思う心や、自分の学びを誇りに思う心は困難に立ち向かう力と成り得る。
- 総合的な学習の時間や各教科の学習に協力をすることの意義が分かった。今後も学びの意義を共有しながら、学校教育に協力する。また、空き教室の利用や図書室の移転と多目的ルームの活用など、学習環境を整えていることが分かった。新学習指導要領に向けてカリキュラム・マネジメントを推進している学校の取組を評価し、協働していく。
- 英語科では、読む、書く、話すなどの力を育成していく。英語教育の充実に向けて京都市では先行して進めていくことが分かった。今後英語教育がどのように発展していくのか楽しみにしている。



子どもたちを取り巻く社会の変化について



- 子どもたちを取り巻く環境が急激に変化し、便利になったようだが、どれだけ頑張ってもハンデを抱える家庭も見られる。健やかな子どもの育成のために地域も協力していく。
- 小学生の体力低下の中でも、持久力の弱さが取り上げられている。持久力は集中力につながる。子どもたちの健やかな体を育むためにも様々な面から協力をする。